

わっこで食べよう  
Take outグルメ

豆腐

土屋豆腐店

新一の橋交差点近くにある「土屋豆腐店」は、大正末期か昭和初期に創業した市内で最も古い豆腐店で、昔ながらの製法で手作りした豆腐や油揚げなどを製造・販売している。

木綿豆腐と絹豆腐（各160円）、おぼろ豆腐（小120円、大200円）、焼豆腐（170円）の豆腐類に加え、油揚げ（80円）、木綿生揚げと絹生揚げ（各120円）、がんもどき（130円）、ミニ生揚げとミニがんも（各50円）の揚げ



☎3489-0092 岩戸南1-3-10 営業=午前9時~午後6時30分 日曜休み

物を販売、自家製の豆乳（140円）、おから（60円）もある。人気のおぼろ揚げ（220円）は平日は午後5時、土曜・祝日は午前11時から売っているが、売り切れることもある。刻み油揚げ（230円）も必要なだけ使えると好評。暑い時期には、冷たくしても豆の香りが高いおぼろ豆腐がよく売れるという。

3代目店主の土屋守夫さん（58）は、妻の浩子さん（53）とともに、昔ながらの手作り製法で伝統的な豆腐の味を守っている。気温に合わせて原料の豆の配合を変えたり、水にひたす時間を

手作りにこだわって守る伝統の味



変えるなど、細部にこだわって作った1日に120~130丁の豆腐を、保育園や高校などにも納めている。また、ゴミ減量を進めるため、容器持参の場合は5円引きにしている。

土屋さんは「粕江の水はおいしく、豆腐作りに向いています。厳しい仕事ですが、祖父や父の代からのお客さんも多く、昔ながらの味を喜んでもらうことが励みになっています。これからもおいしい豆腐を作っていきます」と話している。



初夏が収穫期、生食用に朝採りで出荷

タマネギ

西洋料理に欠かせないタマネギは、1年中店頭に並びますが、初夏が旬。

市内ではほとんどの農家が栽培しているが、多量に栽培している農家は東和泉の谷田部正美さん（53）などわずかだ。谷田部さん方では、マツハ、猩々赤、ネオアースの3種合わせて約8,500株を植えて、5月中旬から6月上旬にかけて収穫、JAマイズなどに出荷している。前年の9月中旬に種子を



まき、11月下旬から12月上旬に苗を植え替えて育てる。冬はもみ殻やビニールで苗を覆い寒さを防ぐ。ことしは雪が多かったため、発育が遅れ、収穫量も減りそうだという。化学肥料の使用をできるだけ抑え、有

機肥料を中心に栽培しており、東京都のエコ農産物の指定を受けている。

サラダなどの生食に配慮して、露を吸ったみずみずしい状態の朝に収穫している。保存する時は、早めにビニール袋から出して、風通しの良い日陰に置くことと長持ちする。新タマネギは冷蔵庫で保存すると良い。

谷田部さん方は明治時代から続く農家で、正美さんで5代目。約35㍍の農地のほか土地を借りてさまざまな

野菜を栽培してきた。正美さんは農協に勤めていたが、35歳から父の跡を継ぎ、現在は枝豆、アイズプラント、ねぎ、オクラなどの野菜を栽培している。

旬菜



タマネギを収穫する谷田部さん

正美さんは「夫婦で耕作しているので、少ない種類をていねいに育てるようにしています。お客さんにおいしいと喜ばれるのが励みです」と話している。

まわり地蔵の縁日でにぎわった昭和初めの料理屋

写真右は昭和5年頃、元和泉の泉龍寺の山門隣にあった料理屋「大泉亭」の座敷。粕江に嫁いだ大久保クニさん(写真右から2人目・故人)が小田急線の開通直後の昭和2年8月に店を開いた。



クニさんの息子の益男さん(89)によると、初めは寺の参拝客や、「まわり地蔵」として親しまれた延命子安地蔵尊が同寺へ戻ってくる日に開かれた縁日の客を相手にかき氷やあめ、団子、菓子などを売っていた。結婚前に調布で酒も出すそば屋に勤めていたクニさんは、

その経験を生かして、開店から1、2年後に川魚や酒を提供する料理屋に変えた。普段は村の人や夜学生が学校帰りに立ち寄って飲む程度だったが、まわり地

肖像の粕江



蔵の縁日の時は多くの人が詰めかけ、にぎわったという。7年に、店の近くに四谷教育会が夏休み中の都心の子ども向けに水泳を教えるプールを建設した。大泉亭はプールに売店を出し、益男さんの父・清行さん(故人)がプールの管理をしていた。左の写真は8年頃、プール

の足洗い場で撮影された大久保さん一家と従業員。プールには弁財天池のわき水を引き、週1回、地域の人手伝って清掃と水の入れ替えを行った。ただ、泳ぐには水が冷た過ぎ、次第に利用されなくなった。取材・写真協力=大久保益男さん

トリオバンドが駅前ライブ

駅前ライブが5月11日、粕江駅北口交通広場で催された。「音楽の街-粕江」イベントとして開かれているもので、今回で38回を数え、市民に親しまれている。



Super Triangle

この日はベース、ギター、ドラムのトリオバンド「Super Triangle(スーパートライアングル)」が出演、ロックやジャズなどを演奏。通りかかった人も思わず足を止めて聴き入り、「初めて聴いた

けど、すごく良かった」などと話していた。3人は都内などで演奏活動をしているが、メンバーの朝倉隆人さんらは「音楽の街-粕江の構

つなげよう 音楽の架け橋

想にたいへん共感しています。駅前に緑があってすごくいい街です。粕江での演奏は初めてですが、たくさんの方に聴いてもらえて良かった。是非、また演奏したいです」と喜んでいました。

大きな絵手紙で店をPR

各店を代表する商品などを描いた大きな絵手紙が市内店舗の店頭に掲示されている。絵手紙の魅力も伝えるとともに、お店のPRをしようとして平成25年度に10店舗に初めて設置されたもので、店舗やお客に好評だったため、10店舗を追加、20店舗となった。新たに設置されたのは和泉園和泉多摩川支店、葉匠志む



キャラウェイ

ひらがな 絵手紙の輪

ら本店、葉匠志むら田中橋店、カフェ ママフク、キャラウェイ、粕江風月堂本店、粕江風月堂市役所前店、成城・城田工房、セジュール、肉の白井。設置したキャラウェイでは「店が目立つようになり、お客さんからも好評です」と喜んでいる。問い合わせ☎3430-4106(一財)粕江市文化振興事業団。